

2011/07/25

日本共産党東京都議会議員団発表についてのコメント<修正案>

日本科学者会議災害問題研究委員・日本環境学会原発プロジェクト副委員長
坂巻 幸雄

今回の発表で、東京都東部3区における放射能汚染の詳細が明らかになりました。かねてから、柏・流山・松戸と続く「常磐線高汚染ベルト」の存在は指摘されていましたが、今回その南端部を含めた全貌が明らかになってみると、改めてその規模と事態の深刻さに驚きを覚えます。

鉄道に例えれば、青信号で快走していた電車に、初めて注意信号が出たようなものです。運転士は、当然もう一つ先の信号が赤であることを予測して、減速等の安全対策を取らなくてはなりません。「そのうち青になるだろう」と多寡を括って、漫然と運転を続けるのは危険で、規則違反です。乗客に当たる都民の心配よりも先に、運転士である行政が、自ら対策を講じなければならないのですが、残念ながらその動きは敏速とは言えませんでした。となれば乗客も、この際声を挙げて運転士に注意を喚起する必要があり、その意味が今回の測定には含まれています。

今回までの一連の測定で特徴的なのは、東京都下と神奈川県下の全域に亘って、同一の機種を用いて、しかも測定方法を統一して、広範囲・高密度のデータが集められたという点にあります。これは、学術的に見ても極めて貴重というだけでなく、これから展開されるべき綿密な対策立案の基礎となります。

この活動が今後とも引き続いて展開されることを、研究者の立場からも大いに期待するものです。

<以上>

上記のコメントは、発表文(案)を筆者が校閲して、問題点を指摘したものです。

筆者自身は、江戸川区南部の測定時に、現場で立ち会いました。